

二〇二四年二月三日（明石句会・参加者六名）

配られし五色短冊初句会	恵子
てんでんに鴨散らばりて陣なさず	恵子
城濠の汀に沿ひて青き踏む	恵子
吟行子芽木の梢を潜りゆく	恵子
芽吹く木の秀枝に鳥語しきりなる	わかば
蒼帝へ対の櫓の尖りけり	わかば
水鳥の楽園となり池広し	わかば
陣の鴨綺羅の水脈曳き散らばりぬ	わかば
まん丸の肩寄せ合ふて日向鴨	せつ子
時打ちの太鼓響きて日脚伸ぶ	せつ子
恙なく句友揃ひて初句会	せつ子
さざ波に乗りて寄りくる番鴨	みきえ
蟬梅の匂ふベンチに風通ふ	きよえ

月例句会みのる選

二〇二四年二月三日（明石句会・参加者六名）